

# 市民意見集

これまでに「区子育て支援検討会議全体会議アンケート調査」、「区子育て支援検討会議ブロック会議の際の懇話会」、「市民懇話会」などにおいて寄せられた市民の皆さまからのご意見を集約し、その一部を掲載したものです。

## 1 保育園・幼稚園

### 1-1 保育所整備について

- ・保育施設の不足は深刻。増設を希望する。
- ・職場や自宅の近くに保育園があってほしい。
- ・保育園への入園が難しい。受け入れ体制を整えることが少子化対策の第一歩。

### 1-2 保育サービスについて

- ・保育サービスの時間を延長してほしい。
- ・病気の子どもを預かる施設等が必要。支援を充実してほしい。

### 1-3 保育制度・職員体制・その他

- ・超過入所等もあることから保育所職員の増員を希望します。
- ・働いてから保育所に申し込んでと言われたが、仕事を探す間も保育所に預かってもらえないと、仕事を探すのが困難。

### 1-4 幼稚園全般

- ・経済的に大変で、近くの私立幼稚園に行かず事のできない家庭も多い。もっと公立幼稚園が必要。
- ・幼稚園も公私で学費にばらつきが大きい。幼稚園も義務教育化を考えていく必要があるのでは。

### 1-5 幼保連携・その他

- ・公立幼稚園についても、通園バスの運行を望む。
- ・幼保一元や多元等色々な言われ方をしているが、単純に一緒にするという問題ではなく、子どもに良い環境・子どもの育つ視点で制度を考えてほしい。

## 2 放課後児童

### 2-1 児童クラブ全般

- ・児童会館の利用を、4年生以上の子ども達にも提供してほしい。生活の場の保障、低学年児童との指導・交流の場として、学童保育所は必要。
- ・学童保育所の増設・充実が必要。小学校単位に1カ所以上、生活の場としての学童保育施設を法的責任で設置してほしい。

## 2-2 児童会館

- ・児童会館の開館時間を延長してほしい。休日も開館してほしい。
- ・地域の人や親子に、児童会館の取組み内容を知ってもらうことが必要。

## 2-3 その他

- ・学校が週休2日制になり、増えた休みの日にブラブラしているだけの学生も相当数いる。土曜日に子ども会や、ボーイ・ガールスカウトなどが活用しやすいような支援が必要では。

## 3 労働環境

### 3-1 労働慣行

- ・男性の育児参加については「ならし保育」の言葉のように、札幌市が独自に「ならし社会参加休業制度」(1日でも2日でも堂々と町内会や子どもの行事に参加できるような補助制度)を求めて後押ししてはどうか。
- ・慢性的な超過勤務をやめるべき。「男は仕事・女は家庭」という固定概念を改め、男女共に仕事と家庭の両立を図るために時間外労働の免除、短時間勤務制度、子どもの看護休暇の導入等、法を職場に定着させ、男性の育児休業制度の取得も促進させなければいけない。
- ・子育てをする親達が、夕食時に帰宅し家族揃って食卓を囲めるような働く環境であることが、親・子にとって幸福な環境ではないか。
- ・公務員には育児休暇等の制度が整っているが、民間においては働きながら子育てできる環境が出来ていないと思う。
- ・母親はもちろん、父親も含めた労働環境の整備が必要だと思う。職場の意識が変わらなければ、父親に協力したいという気持ちがあっても難しいと思う。

### 3-2 その他

- ・不況の中、働く場の継続も難しくなっており、育児休暇もますます取りづらくなっている職場も多い。育児休暇中の、人の確保や配置、休暇後の復職等がしっかりと行なわれなければいけないと思う。
- ・出産、育児が女性の仕事の不利にならないような制度の充実が必要。
- ・乳幼児の子を持つ父親が忙しすぎて、母親の負担が大きい。企業等に働きかけ、子を持つ人に配慮した社会を作してほしい。

## 4 生活環境

### 4-1 遊び場(公園等)

- ・公園内のトイレで、遊具から離れていたり、暗く汚いことから園児のみで行かせることができないものがある。子どもが活動する場については、設備が適切か確認をしてほしい。
- ・地域の子どもが自由に集える場の増設。

## 4-2 居住環境

- ・2階に住んでいるが下の人から子どもの足音の苦情をうける。子どもとしては特別騒いでいたわけではないので、子どもがのびのび過ごせるような家が安く持てるような社会にしてほしい。

## 4-3 公共施設・交通・その他

- ・習い事や講習会において、託児施設が少ない。
- ・「子育てマップ」のような、子ども連れでも出かけて行けるような場の紹介をしたものがほしい。
- ・駅のエレベーターの場所が非常に分かりづらかったり、歩道に車が駐車しているなどといった、ベビーカーでの移動がしやすい環境を改善してほしい。

## 5 経済的負担

### 5-1 子育て家庭の負担軽減

- ・子どもがたくさんいるほど食費などのお金もかかるのだから、フランス人のようにひとり6万円の補助を導入すればよいのでは。そうすれば働きに出ている人も家に帰り、出生率も上昇するのでは。
- ・子育てはお金がかかる。子どもは社会の財産なのだから、子どもにかかる費用は国が補償すべき。
- ・日本でも大学卒業まで所得制限無しで児童手当を受けられるようなサービスを考えるべきではないか。
- ・経済的支援（特に専業主婦に対する）への取組みが重要なのではないか。
- ・育児・子育てに関する財政面での支援の増加を希望する。子どもにはお金がかかるという意識を少しずつ変えていかなければならない。
- ・6歳まで医療費無料、幼稚園・保育園料を安くする等、子どもを産んでも経済的負担がかからないよう考えては。若い世帯にもう少し援助してもよいのでは。そのために税金が高くなっても仕方ないと思う。

### 5-2 その他

- ・会場等の場所の使用料の負担が大きいので、計画に合わせた助成金をお願いしたい。
- ・子育て支援を目的とした、地域の親子が集まれる場所を計画・実施する際に、単独で使える予算があると良いと思う。

## 6 その他

### 6-1 少子化（対策）の在り方

- ・少子化対策として、男女の労働時間を短縮するということはかなり効果的だと思う。
- ・社会、経済、福祉のあり方も考えながら少子化問題に取り組んでいかなければならない。
- ・少子化対策は「子どもを増やす」ための策略ではなく、「人と人が関わりを持ち豊かな地域社会を作っていくこと」を基本に、札幌の子育て支援策が策定されてほしい。
- ・「少子化」はまだ何十年しか経っていない。その程度で騒ぐ必要はないのでは。
- ・「少子化対策」等と名前のついた制度は効果がないし、むしろ逆効果になると思う。

- ・子育て支援, 少子化対策があるから子どもを持とうという考えに至るとは思えない。現在, 子育てで困っている親や子育て支援を行なっている人達に目を向けるべきである。

## 6-2 子育て支援全般

### 6-2-1 人・場所づくり

- ・今こそ, 人づくりに金をかけるべき。人づくりには集う場所の確保や団体の育成が不可欠。
- ・子育て支援等に関するサークルを地区会館や児童会館で開いているが, 地理的に利便性が悪い等苦情があるので, 他の公共施設で使える所がないだろうか。
- ・冬場に親子が, 地域で集える場所が必要。
- ・どこにでも子育てをサポートする人・場所があるという形にシステムが変わっていかないと, 若い人たちも子育てに関心が向かないのでは。
- ・雨の日は遊ぶ場所が無いので, 子どもを連れて行ける施設を増やしてほしい。  
0・1歳児から安心して利用できる施設, 年齢別に分けて遊べるスペースが必要。
- ・子育ての母親等が集える場(児童会館・保育所等)がある地域は良いが, 遠隔地の親等は遊具も少ない公園で, 小集団で子守りをし, 悩み事を話し合っている。へき地に住む親子に手を差し伸べてあげたい。
- ・活動する場等は広範囲で細かくあった方が良いのでは。小さな子を抱えて出向くには限界があり, 特に冬期間は孤立してしまいがちなので, その部分の改善並びに情報の提供の徹底が必要。
- ・常に親子が集えるような支援センターを, 各区毎に設置していくことが大切だと思う。

### 6-2-2 相談等の支援

- ・支援を必要とする時, どこに相談したら良いのかというのを周知させるため, 医療機関, 保健センター, 児童会館等に案内を配布し, また, 広報やインターネット上等にも掲載してはどうか。
- ・気軽に, そして誰にも知られずに悩みを聞いてもらえる場のPRをしてほしい。

### 6-2-3 その他

- ・これから母親になる人に対し, 地域に支援の仕組みがあることを教えてあげるだけで, 安心して出産することができると思う。
- ・出産時, 産後は炊事・掃除等の家事が大変なので, 介護支援制度のような出産時や産後の民間の保険を含めた支援制度があれば良いのではないか。
- ・支援されることが「当たり前」になってくると, 要求も多くなり他をあてにするようになってしまわないか。「支援していただいているんだ」という気持ちを持ってほしい。
- ・保護者の要望は多種多様な為, いくつかの支援策を用意し, それを選択して利用するという形が望ましい。
- ・子育て中の母子と, 地域の老人達が交流する機会が持てると良いのではないか。

## 6-3 地域(ネットワーク)・組織(システム)

- ・子どもの教育に地域がもっと目を向けるべき。
- ・魅力ある子育て家庭をいかに市民に見せるかが必要であり, そのための地域ネットワーク作りが重要。

- ・地域の輪をつくることによって、子育て家庭の孤立を防ぐとともに、地域みんなで子どもを育てる地域作りが大切だ。
- ・これからはPTAから「PTCA」で物事を考えるべき。親と先生とコミュニティ・地域が一体となって子ども達を育てていく仕組みづくりをしなければならない時期に来ている。
- ・行政がパイプ役になり、民間と協力できる体制が必要。企業もそれにお金を出す仕組みにしなければならない。
- ・各団体がそれぞれ頑張っているが、横がなかなかつながらない。町内会、学校、児童会館、国の管轄など、縦割りではなく地域の子育てに関する人全てが集うことの出来る場、会議が必要だと思う。

#### 6-4 学校・学校教育

- ・未婚の女性達と話をすると、価値観の多様化を感じる（仕事はしたい、子どもはいらない等）。これから教育の場において、子どもを産む文化を教えた方が良い。
- ・ゆとり教育と言っても、子どもにはまったくゆとりがない。本当の意味でのゆとり教育のため、少人数学級、男女平等教育等に力を入れることを要望する。
- ・子育てサークル等、子どもに関連した利用の時は、小学校の空き教室を利用できないだろうか。

#### 6-5 母子保健・医療

- ・乳幼児の医療費について見直しをしてほしい。
- ・道外から札幌に来て知り合いもない状況の人のためにも、夜間・緊急時に、育児についての電話相談・医療などがあればいいと思う。
- ・出産にかかる医療費（出産までの検診にかかる費用等）が大きい。
- ・新生児の保護者に対してのケアや情報提供が不足していると思う。

### 6 6 親づくり

- ・今の母親は「しつけ」や「周りの母親との関わり方」について学ぶ必要があると思う。その際は、子どもと離れたうえで行なうことが望ましい。
- ・子どもと家庭（親）は切り離せないものだからこそ、親に対する支援が重要。
- ・子育てについて、自信の無い親・人任せの親が多い。父母に対する「親業」の指導と教えが必要な段階にまできている。
- ・将来親になる若年世代に対し、子育て等についての教育が必要。
- ・子育ては、「文化」の伝承を根底に持つもの。世の中の仕組み、人生哲学、処世術、一般教養等、親の知恵に厚みを持たせる必要がある。

#### 6-7 社会の仕組（問題点）

- ・社会全体が良くなると、安心して子どもを生み育てることが出来ない。
- ・ライフスタイルが贅沢になりすぎている。国民の意識の変化が必要。
- ・子育てが辛いことだという情報が多すぎて、親が尻込みしている。マスコミはもっといい所を伝えなければ、誰も子どもを作ろうという気にもならない。
- ・親自身も自由な生活を楽しまたいという欲求が、少ない子ども数となって現われているのでは。
- ・子育て中の母親が、安心して育児をしていくことが出来る社会をつくるために環境整備が必要。

## 6-8 子どもの権利（安全）

- ・幼保一元や多元等,いろいろな言われ方をしているが,子どもにいい環境をどのようにつくってあげられるかということが必要。
- ・子育て支援対策を見ていると,大人へのサービスが中心で子どもの実態がつかめていないように思う。もっと子どもを中心とした対策を講じて頂きたい。
- ・地域で子育てをしている方に取材し,知恵・ポイント等の情報を収集し,地域に広げることにより,虐待予防・防止の一助になると思う。  
行政主導でなく,地域の人々のニーズに合った援助が出来るような機構が求められると思う。

## 6-9 要保護（障がい・被虐待）児童

- ・子ども達が家庭に帰ってしまうと虐待等の実態がとらえにくい。なかなか家庭の中に入り込んでいけない。もっとラフな形で育児支援・相談をしていけるようなシステムを作っていかなければいけないと思う。
- ・障がい児も乳幼児期においては健常児と一緒に生活することがより成長を助けることになると思うが,補助単価が低く,十分なニーズに対応できていない。保育事業等について,実態に合った補助額の支給を希望する。

## 6-10 行政全般・計画作り・その他

- ・里親として,預かっている子どもを社会に送り出すためには,専門学校や大学を出してあげなければ自活することができない。賛助会員等の増加により,そのような子ども達を援助してほしい。
- ・子育て支援の計画作りの方法について,市民の声を聞く機会を数多く設けてほしい。
- ・財政の,具体的な裏づけのある（見える）子育て支援。
- ・地域で子育てを支える仕組みは大切だと思うが,地域の受け皿としての,町内会,福祉のまち推進センター等はまだまだ「力」が弱いと思う。  
行政が地域に任せるのではなく,行政と地域住民が手を取り合って子育て支援を行なうことが必要である。
- ・市民懇話会は一区1ヶ所とのことだが,せめて2ヶ所くらいにして,最も活発に行なわれている地区と,最も不活発な地区で行なってみてはどうか。
- ・小手先だけの支援策ではなく,先を見据えた計画性のある支援策を考えるべき。  
さらに,市民にわかりやすい(ネーミング等)ものになることを望む。